地域と医療で咲くコミュニケーション

あまが咲だより

2016
12月
No.31

兵庫県立尼崎総合医療センター

［新たな診療取り組み］

【経カテーテル的大動脈弁留置術（TAVI）】

大動脈弁狭窄症に対するカテーテル治療“TAVI”がさらに進化!!

［診療科紹介］病理診断科／小児アレルギー科

●ダウン症赤ちゃん体操指導員養成コースの開催
「赤ちゃん体操」が育む家族の絆を全国へ

●セミナーのご案内　●スタッフのつぶやき　●Happy Halloween !!!!

最先端医療

ハートチーム（循環器内科、心臓血管外科、麻酔科、看護部
臨床工学部、放射線部、臨床検査部、リハビリテーション部）

AGMC 新たな診療取り組み
【経カテーテル的
大動脈弁留置術】

TAVI報告：第3弾

大動脈弁狭窄症に対する（タビ）カテーテル治療“TAVI”がさらに進化!!

本誌5月号、7月号も参照ください

TAVI（タビ）とはカテーテルを使って生体弁を留置する新しい手術法で、従来の手術と異なり心臓を止めずに行え、人工心肺も不要です。そのため体への負担が軽いのが魅力です。

＜経カテーテル的大動脈弁留置術＞
Transcatheter Aortic Valve Implantation ; TAVI

去る平成２８年５月から当院でTAVI（タビ）を開始し、半年間で総計１３例の治療を実施しましたが、開始当初と比べて更に進化した３点につきお知らせします。

①経心尖アプローチを開始しました。

最初に導入した鼠径部からカテーテルを挿入する経大腿アプローチに加えて、11月からは経心尖アプローチを導入して２人の患者様の治療を行いました。この方法は左の肋骨の間を小切開し、心臓の先端を少しだけ見えるようにして直接カテーテルを挿入する方法です。経大腿アプローチと比較すると患者様の負担は少し大きいですが、鼠径部からカテーテルの通過が困難な場合に非常に有効な方法です。

②大腿アプローチのTAVIで緊急治療を実施しました。

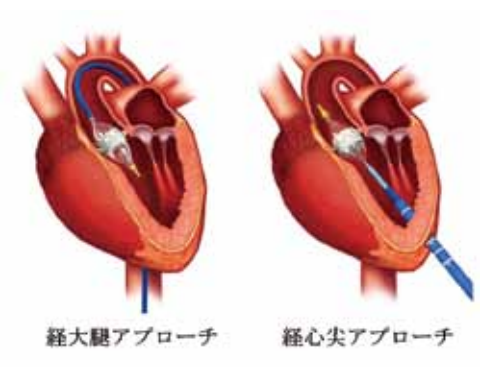
同じく11月には薬物療法では心不全が改善しない患者様に緊急的にTAVIを実施し、救命に成功しました。他の総合病院で治療を受けるも、病状悪化し当院に緊急搬送となりました。全身状態の改善を待ってからのTAVIを予定しましたが、心不全が改善しないため緊急的にTAVIを実施しました。状態が不安定であったため心臓を補助する装置を併用して治療を実施し、術後２日目の現時点で歩行訓練できるまでに回復されています。

③経大腿アプローチが更に低侵襲になりました。

経大腿アプローチでは一般的に鼠径部を切開して動脈を露出してカテーテルを挿入し、抜いた後に血管縫合を行いますが、当院では切開をせずに特殊な血管縫合用の器具を用いて止血を行うようになりました。これには特殊な技術が必要ですが、当院は数年前から大動脈瘤のカテーテル治療であるステントグラフト留置術で本術式を導入した先駆け的存在であり、TAVIへの応用も問題ありませんでした。これにより更に早期の退院が可能となります。なお、当院で経大腿アプローチで予定のTAVIを実施した患者様は１０名おられますが、平均年齢は８５歳（７７歳～８９歳）で、術後は３～7日目（平均5.2日）後に退院されております。

今後も更なる改善を続けて、良質な最先端の医療を提供してまいります。

循環器内科部長　当麻 正直
心臓血管外科部長　大野 暢久
ハートチーム一同



従来からの鼠径部を切開した場合の傷（5～10cm程度）

切開しない場合の傷（1cm未満で痛みもない）

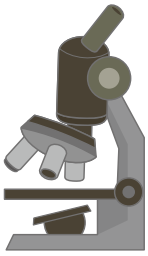
経皮的血管縫合器

この装置を用いることで、切開せずに血管を縫合することができるため、太いカテーテルを動脈に挿入した後の止血が可能となります。

病理診断科

病（やまい）の理（ことわり）を診る

病理診断科が日本で標榜科になったのはわずか8年前のことですが、病理学は長い医学の歴史とともに存在し、病気そのものの形態的変化を観察・診断する臨床医学の側面とその病態・病因を研究する基礎医学の側面を併せ持つ、欠かすことのできない分野です。病理医が直接患者さんと対面することはほとんどありませんが、多種多様な疾患が集まる当センターでも、精度の高い診断・迅速な対応を心がけたいと考えています。



病理診断科科長

山本 鉄郎

日本病理学会専門医・指導医・評議員
日本臨床細胞学会専門医・指導医
死体解剖資格

小児
アレルギー科

こどものアレルギーにお困りでは

当センターでは、子供たちのよりよい日常を目指して、アレルギー診療を行っています。アレルギー疾患は、当科では、子供たちの成長も考えながら、それぞれの疾患に対する適切な診断・治療・指導を行っています。

川崎 英史

日本小児科学会専門医

診療内容のご紹介

小児アレルギー科は近年増加するアレルギー疾患を診断・治療する科です。アレルギー疾患といえども時には生命にかかわることもあり、適切に対応しなければいけません。当科では学会ガイドラインに基づいた適切な対応によりアレルギー疾患を治療もしくはよりよくコントロールする事を目指しています。

対象となる主な疾患

気管支喘息：
内服・吸入療法等により発作ゼロを目指す治療・指導を実施。

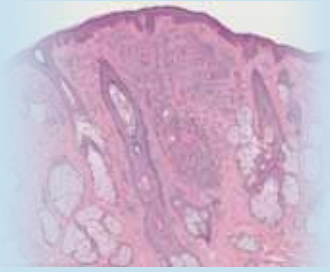
アトピー性皮膚炎：
内服・外用療法を併用しながら、乳児期早期から皮疹の治療・コントロールを行い、湿疹を成人期に持ち越さないようにする事が目標。

食物アレルギー：
血液検査や食物負荷試験を行い、必要最小限の食物除去を基本に、安全な食生活を送れるための診断と指導。診断には経口食物負荷試験も行い、必要な症例には積極的にエピペンの指導や処方を実施。

花粉症：
最近増加傾向にある小児の花粉症に対しては内服、点鼻薬等によるシーズン前からの予防を行い、少しでも症状が軽くなるようにコントロールする事が目標。

診療内容のご紹介

当科が担う主な診療は、病理組織診断、病理細胞診断、術中迅速診断、病理解剖、セカンドオピニオンです。病理検査は肉眼的観察や顕微鏡を使って患者さんの臓器・組織や細胞を詳しく調べ、病気の診断名を確定するために行う非常に重要な検査です。病理検査室では、組織や細胞を薄く貼付けて染色したプレパラートと呼ばれる顕微鏡観察用標本を作製します。それらを病理医が顕微鏡で見て診断を行い、主治医に結果を報告します。



対象となる主な疾患

組織や細胞を採取して調べる必要がある疾患に関して、ほぼ全科の患者さんの診断に関わります。病気には大きくわけて腫瘍、炎症、代謝異常、奇形があり、そのいずれもが病理診断の対象になります。腫瘍であれば良性か悪性も含めたその種類、広がり、増殖様式、取り切れたかどうか、等を観察します。炎症であれば種類、広がり、原因(感染症、自己免疫疾患、アレルギー等)を示唆する情報等を詳細に検索します。

ないですか?

新生児・乳児・幼児・学童と子供の成長にともない、みられるものが少しずつ異なります。
子供たちのよりよい日常とすこやかな成長が、我々小児アレルギー科の願いです。

小児アレルギー科科長

飯尾　潤

医学博士
日本アレルギー学会専門医
日本小児科学会指導医

西濱 扶生子

日本アレルギー学会専門医
日本小児科学会専門医

左から:川崎医師、飯尾医師、西濱医師

ダウン症赤ちゃん体操指導員養成コースの開催

赤ちゃん体操が育む家族の絆を全国へ

県立尼崎総合医療センター 小児科
赤ちゃん体操教室　**藤田 弘子**

1970年、塚口病院小児科に関西初の「染色体外来」開設に伴い、非常勤医師に招聘され、多くのダウン症の赤ちゃんとご家族に出会いました。当初は診断を行うのみでしたが、外来が終わっても帰ろうとせず、ずっと話し込むご家族達に何か自分に出来ることはないかと考えました。ダウン症児の低緊張から生じる特異動作を防ぎ、正しい歩行へ導く「赤ちゃん体操」を考案し、またご家族の孤立を防ぐことも目的として、1976年、「赤ちゃん体操教室」を院内で始めさせていただきました。多くの小児科医や療育の専門家にご支持いただき、ダウン症児を育てるご家族を支える役割を長年にわたり果たしてきました。

2006年、日本ダウン症療育研究会（事務局：近畿大学医学部小児科学教室）が発足され、「赤ちゃん体操指導員養成コース」が、研究会の事業として、年に一回開催されることになっていますが、今年度は、10月22日から2日間開催し、全国から多くの受講生が当院講堂で、講義を受けられました。研究会認定の教育施設で実習を受け、所定の単位を履修すれば、認定証が交付されます。

当院発祥の「赤ちゃん体操」は、いま全国へと展開されています。

2つの当院企画セミナーのご案内

多くの方のご参加を！

第61回市民健康公開講座「市民すこやかセミナー」

テーマ

『脳卒中にならないために!!』
～日常生活での注意点～

講 師：県立尼崎総合医療センター
▶脳神経外科　医師 山田圭介
▶地域医療連携センター　看護師 大谷サエ子

【日　時】平成29年1月17日（火曜日）
午後2時～3時30分
【場　所】県立尼崎総合医療センター 講堂（1階）
参加費：無料（予約不要）

★お問い合わせ：地域医療連携センター
☎ 06-6480-7000（代表）

第8回 生活習慣病セミナー

テーマ

『睡眠時無呼吸症候群の診断と治療』
～生活習慣病との関連～

講 師：県立尼崎総合医療センター
▶耳鼻咽喉科・頭頸部外科　医師 森田武志
▶臨床検査科技師　中澤佳代

【日　時】平成29年1月24日（火曜日）
午後2時～4時
【場　所】県立尼崎総合医療センター 講堂（1階）
参加費：無料（予約不要）

★お問い合わせ：外来Bブロック（糖尿病・内分泌内科）看護師
☎ 06-6480-7000（代表）

スタッフのつぶやき

経営企画課って何しているところですか？

経営企画課のお仕事

経営企画課長　瀧口 直彦

皆さん、こんにちは！　兵庫県立病院で初めて設けられた経営企画課のお仕事について紹介します。

一言で言えば、地域完結型医療の枠組みの中で尼崎総合医療センターが果たすべき高度急性期病院としての基盤を築き上げていくことです。基盤と言っても色々なものがあります。

その中で私たちは、**①運営基盤**「病院全体の運営力を高める仕組み作り(患者さんへの丁寧な事前説明や外来から退院までのスムーズな流れ)」、**②経営基盤**「経営分析や診療材料費の値引き交渉」、**③施設基盤**「間もなく完成予定の立体駐車場整備」などに取り組んでいます。

特に「運営基盤」の確立は、当センターが、団塊世代が後期高齢者となる2025年問題に的確に対応し、高度急性期医療を支えていくため、最も大切なミッションと心得ています。地域の皆様に良質で高度な医療を提供する病院であり続けるため、一流の医療資源に見合うマネジメント構築に向け頑張っていきます。

Happy HALLOWEEN!!!!

10月31日は、ご存知、ハロウィン。

当センターの院内保育所から多くの可愛い子ども達が院長室を訪れ、朝の管理フロアは、東京の渋谷交差点に負けない賑やかなハロウィンモードとなりました。泣き叫んでいた子ども達も「トリックオアトリート」と言ってお菓子をもらい、ご機嫌。帰るときには、大満足な笑顔に変わっていました。子ども達のお顔をお見せできないのは残念ですが、後ろから賑やかなハロウィンの雰囲気を感じてください。

編集後記

今年も残すところ1ヶ月を切り、慌ただしい日々が続いています。それでも、今月号のあまが咲だよりが無事に完成し、1年間途切れることなく、みなさんに当院の情報を配信できたことに、充実感・達成感を感じています。来年は、当院の医療に関する技術やスタッフだけでなく、新たな紹介記事を掲載することも検討していますので、引続きあまが咲だよりをお読みいただければ幸いです。

(K.O.)

兵庫県立尼崎総合医療センター
Hyogo Prefectural Amagasaki General Medical Center (Hyogo AGMC)
〒660-8550 兵庫県尼崎市東難波町二丁目17番77号　TEL 06-6480-7000(病院代表)　FAX 06-6480-7001
URL：http://agmc.hyogo.jp/
兵庫県立尼崎総合医療センター　検索

発行　兵庫県立尼崎総合医療センター　企画協力・デザイン・印刷　兵田印刷工芸株式会社